

● BATTLE GREEN / 連載エッセイ 12 ●

次は、高校とデモが予定されている各教会への対策だ。レキシントン町の警察だけではなく、近隣の町の警察が治安のために協力してくれることになったが、ハイトグループに対して何らかの意志を表明したい、という町民の気持ちは収まらない。

「どうせデモをするのならば、我々の町のデパーシテイと協調を強調しましょう」ということで、ユダヤ教、ユニテリアン教会、コングリゲーションナル教会、バプティスト教会などが混じり合って手をつなぎ、「静かなデモ」を行うことが決まった。しかし、町に存在する宗教団体のうち最も信者が多いグレースチャペルは参加を辞退した。代表者は何の説明もしなかったが、教義で同性愛を罪悪とみなしている彼らにとって、このデモは根本的に支持できないものだったのかもしれない。

☆☆☆

私は「当事者以外ではデモの場に行かないように」という警察の要請に従って高校と教会には行かなかったが、月曜の朝はふだんのジョギング

レキシントン町には多様な宗教団体の代表者が参加する聖職者連合というものがある。その連合が提案したのが、「静かなデモ」である。「静かなデモ」では、参加者は手をつないで輪になり、抗議する相手に背を向けて立つ。彼らがどんなに酷い言葉を口にしようと決して言い返さず、ただ静かに立つだけのデモは「言うは易く行うは難し」である。なれない者は、つい言い返してしまい、それが争いに発展する可能性がある。成功させるためにはトレーニングが必須である。そのトレーニングを引き受けてくれたのは、会議の出席者の一人だ。デモが行われる学校や教会に無関係の人が挙手して「実は、私はその専門家で」と無報酬のトレーニングを気軽に申し出たのは、決して珍しい場面ではなかった。「これをやってくれる人は？」と問いかげがあると、必ず「それは私が引き受けましょう」と誰かが手を挙げる。それがこの会議のスタイルなのである。

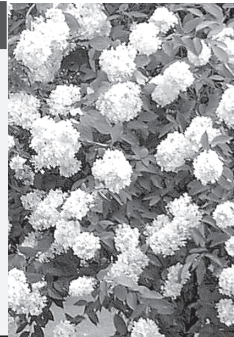
☆☆☆

バトルグリーン / 連載エッセイ 12

渡辺 由佳里

レキシントン町のユニークな対応<その2>

沈黙の抗議 - 後編 -



※注 下記の「エスタブルック事件参考サイト・文献」『たからまがじん』2007年10月号～2008年3月号をご参照ください。
※ 文中の固有名称は新聞などですでに公表されており、ここでも実名を用いています。

エスタブルック事件参考サイト

【Lexington C.A.R.E.S.、レキシントン公立学校教育長、レキシントン検察長による共同声明】

HYPERLINK "http://www.lexingtoncares.org/LPSPressRelease2005-05-02.pdf"

【Lexington C.A.R.E.S. による記事】

HYPERLINK "http://www.lexingtoncares.org/LearnTheFacts.html"

HYPERLINK "http://www.lexingtoncares.org/LearnTheFacts.html"

【Article 8 Alliance による記事】

HYPERLINK "http://www.article8.org/docs/news_events/parker/main.htm"

HYPERLINK "http://www.article8.org/docs/news_events/parker/main.htm"

参考文献

Time : "Feels Like Teen Spirit", August 8, 2005.

連続した事件への、警察、教育

☆☆☆

（つづく）

のついでにエスタブルック小学校の正門を遠くから観察できる道を通った。小雨がふるエスタブルック小学校正門の前には、「神はアメリカを憎んでいる(God Hate America)」というWBCのカラフルなブラカードが並んでいた。彼らを囲んでいるのは、テレビニュースでよく見るレポーター数人と警官だけで、観客が欠落しているために滑稽なほど静かな光景だった。夕方のテレビのニュースでは、WBCがレキシントン町の次に訪れた他の町での住民の抗議デモや保護者とWBCメンバーとの間の罵り合いの場面が繰り返して流れていたが、エスタブルック小学校についてはWBCのメンバーが映ったただけだった。ここでは何もニュースとして伝える事件が起こらなかったからだ。翌週のポストンローブ紙に掲載されたのは、レキシントン町のユニークな調和を表現する美しい写真だった。メソジスト教会を背景に、ユダヤ教、ユニテリアン、コングリゲーションナルの信者たちが手をつなぎ、WBCの醜いデモに背を向けて立っている。その静けさが伝えるメッセージは、言葉よりも強いものだった。

長、教育委員会、公立学校運営陣、教師、保護者、聖職者連合、町民ボランティアの対応は、まるで毛利元就の「三本の矢」ならぬ「無数の矢」の教訓のようだった。校長だけの判断だったら、エスタブルック小学校のデモを静かに回避することはできなかっただろう。警察だけでも無理だ。それには保護者のインプットと協力が必要だ。我々はパートナーであって、敵ではない。レキシントン町に住む異国人の私にとって、この信頼の輪に含まれるのは何よりも誇らしいものであった。

☆☆☆

キャリア・ホールで二ヶ月にわたる連続で開かれた臨時会議は、WBCが去った翌週の六月七日に最終日を迎えた。そのしめくくりとして私たちは席から立ち、左右に立っている者と手を繋いでひとつの輪を作った。ユダヤ教のラビ、ゲイの牧師、バプティスト教会の牧師、教育委員、小学校と高校の校長、社会活動家、警官、ジョン・ケリー支持者とブッシュ大統領に票を投じた者……。宗教、政治、思想の異なる人々が手を取り合い、「これからもレキシントン町に難問が発生すれば、こうして力を合わせて立ち向かいます」と誓い、拍手をして分